

●事例紹介●

関西大学におけるキャリアサポートの展開

吉原 健二

(関西大学キャリアセンター事務長)

一 キャリアセンターへの転換

本学では、平成一六年四月から従来の就職部をキャリアセンターに改称した。以前からも三・四年次生のための就職指導・幹旋型の取組に加えて、下位年次生を対象に将来設計を見据えた各種プログラムを展開していたが、就職部という名称ではどうしても上位年次生のための組織と認識されてしまうこともあり、その機能と役割の変化に伴って名称を変更したものである。なお、このようなトレンドは、本学に限らず他の多くの大学がその傾向にあるのが現状である。

これらの背景としては、大学への進学率が上昇し、複雑化・高度化した社会において、大学卒業者に求められる資質が本当に多様化していることにある。それに対して、学生自身の職業観の欠如や価値観の変化により、社会のニーズと学生の思いが一致していない状況が目に見えることから、何とかその溝を埋めるために各大学が身を乗り出しているところにある。

現代の学生は、将来の自分像を描いたり、自分は何にやりたいのか、何を目指したいのか、何のために働くのか、仕事をどのように取り組もうと思うのか、といったことを考えにくい傾向が強い。そのため、ただ単に四年後の就職だけを意識するのではなく、働く意義や職業観を涵養して、

一〇年後、二〇年後の将来を見据えた自分のあり方、つまりはキャリアデザイン(将来設計)を考えさせる機会を提供することが重要になっている。キャリアセンターと名称変更したのは、学生が各自の目標を自己実現するために有意義な学生生活を送るための計画・行動を促す様々なプログラムを積極的に展開するのだという大学の強い意志の現われと理解してもらってよいであろう。

二 低学年からの取組を重点化

学生が「将来どのような職業に就こうか」「どのような生き方をしたいか」と考えること、これが即ちキャリアデザイン(将来設計)の第一歩といえる。このような些細な疑問を紐解くために初歩的な進路選択にかかるガイドブックとして本学では「キャリアデザインブック」を入学者全員に配布して進路選択や就職活動、資格取得等に関する基本的な案内を行っている。

さらには、学生が自分の将来について考え、目標を設定し、実行に移していくきっかけ作りを提供する機会として「キャリアアップニングセミナー」を主に一・二年次生を対象にして開催している。このセミナーは、キャリアデザ

イン(将来設計)の導入として開催しており、その後のインターンシップや三・四年次での具体的な就職活動にスムーズに取り組めるようにアレンジしている。平成一六年度の主な内容は次の通りである。

- I ベーシックシリーズ
 - ①「職業興味・適性を知ろう」
 - ②「自分の性格を知ろう」
 - ③「職業の世界を知ろう」
 - ④「キャリアプランを立てよう」
- II 就職について考えるシリーズ

- 「自己分析講座」
- 「仕事研究セミナー(OB・OGとの懇談会)」
- 「ビジネスマナーを学ぼう」
- 「就職模擬試験」
- III 自分にベストな会社の見分け方
 - 「第一回インターンシップ説明会 意義と今後のスケジュールについて」
 - 「第二回インターンシップ説明会(三・四年次生対象) 募集に関する説明会」

三「キャリア教育」科目(インターファカルティ教育科目)

大学としてもキャリアに関する学生への啓発がキャリアセンターだけの取組として留めておける段階ではないとの理解から、正課カリキュラムとして「キャリア教育」三科目をインターファカルティ教育科目(学部横断型開設科目)として二〇〇四年度から後記に示すとおり順次開講している。今日は個が問われる時代であり、実社会においては、一人ひとりが「どのような能力、興味、価値観を持っているのか」が問われるようになってくる。このような社会で生活していくためには、「ワークキャリアとライフキャリア、すなわち働くことと生きること」について自らデザインしていく力が必要である。

そこで、自分の将来をデザインする能力、情報を収集する能力、意思決定を行う能力、人間関係を構築する能力といった「生きる力」を身に付けるための内容を本科目によって教育することを目的にしている。キャリア教育三科目においては、文章表現やプレゼンテーション、グループ討論といった課題も交えながら、自己と社会に対する理解を深めるとともに、自己と社会との関わりについて洞察し、

受講生が自らの将来について考える機会が提供される内容としている。

「キャリア教育」科目の概要

- キャリアデザインⅠ(働くこと)
- △二〇〇四年度開講 一年次・秋学期・二単位
- 一・働き方を考える 二・社会を考える 三・生き方を考える
- キャリアデザインⅡ(仕事の世界)
- △二〇〇五年度開講 二年次・春学期・二単位
- 一・職業を知る 二・業界を知る 三・企業を知る
- キャリアデザインⅢ(私の仕事)
- △二〇〇五年度開講 二年次・秋学期・二単位
- 一・自分を知る 二・自分を表現する 三・自分の将来を考える

四 キャリアデザインルーム(進路支援室)を設置

学生が自らの進路について悩むことや考える内容は多種多様である。このような学生のために、キャリアセンター事務室とは別にキャリアデザインルームを設けているのが本学の大きな特徴といえよう。

の流れにおけるメインイベントとして位置づけている。

さらに、就業体験を通じて社会人と学生との実質的な差異を学生自身が認識し、残りの学生生活でそれらを補完して実社会で通用する専門性・社会常識を涵養するための「気づき」のプログラムとしても位置づけている。

本学では平成九年度から同プログラムを実施しており、総合大学の取組としてはもともと古く、そして規模の大きなものとなっているといえる。

平成一六年度の夏季実施分では、企業や自治体等への大卒からの派遣、公募制インターンシップ、国際インターンシップを含めると計三〇九団体の協力を得られ、学校の教育現場で就業体験する学校インターンシップを合わせると延べ四二八の団体で延べ六八一名の学生が実習を体験している。実習受入先団体の規模・業種は、メーカー・建設・金融・商社・流通・小売・情報サービス・マスコミ・教育・公務員等と多岐にわたっている。なお、インターンシップでの成果は各学部で主に自由科目の単位として認めている。

なお、実際には大学から派遣した学生数の倍以上の学生がインターンシップ参加を希望しており、さらなる受入先の拡充をはかることが大学として必要な努力であると理解

キャリアデザインルームには、教職や公務員関係をはじめめとする進路・就職のための資料を多く配架し、閲覧や貸出に供している。また、パソコンを使った職業適性診断システム「In☆Sties 2000」など、進路選択に有効な適性検査も受けることができる仕組みを導入している。

さらにここでは進路に関する漠然とした不安や職業・就職活動・教職の疑問・相談に、専門知識やカウンセリング技術を有した専門のキャリアアドバイザーを複数名配置して懇切丁寧な助言を与えるサービス(要予約)を展開している。平成一五年度には三、〇〇〇件を超える利用があり、今後とも本支援室の充実をはかる予定である。

五 インターンシップ

学生が持つイメージと現実との乖離による職業ミスマッチに起因した転職者が増えている今日において、インターンシップ制度は、学生にとっても企業にとっても重要な意義がある。キャリアセンターでは、同制度を主に三年次生(理系は大学院生も対象)対象に実施し、低学年から開始しているキャリアプランニングセミナーや自己分析講座などの早期涵養プログラムとともにキャリアデザインの一連

特集・就職

している。また、別の観点では同制度を定着させるという量的充実の段階から質的充実をはかる時期に入っていると考えており、現在は新たな展開を準備中である。

六 三年次生向け就職支援行事

いよいよ「就職」という二文字が具体的に意識され始める三年次生の段階になると本格的に就職準備のための様々な行事を提供している。当センターでは、「キャリアアップニングとは何か?」「就職活動は何から始めたらいいのか」といった基本的な疑問に答える内容のものから、将来スムーズに自己実現ができるような取組まで段階的に様々な支援行事を最速の時期に最適の内容で実施することに注意を払っている。なお、当センターでは主に次のような行事を実施している。

四月

- 第一回就職（進路）ガイダンス（就職活動の流れなどを説明）
- 第一回インターンシップ説明会*
- 国際インターンシップ説明会*
- キャリアアップニングセミナー（ベリックシリーズ）*

五月

- 就職模擬試験
- 仕事研究セミナー（OB・OGとの懇談会）
- 自己分析講座
- 公務員試験説明会
- 自分にベストな会社の見つけ方セミナー

- 第二回インターンシップ説明会
- TOEIC IPテスト*

- 就職模擬試験

七月

- 第二回就職（進路）ガイダンス（夏休みの過ごし方）

- ビジネスマナー講座*

- 教員採用試験対策講座募集説明会*

九月

- 第三回就職ガイダンス（進路登録と就職支援行事の説明）
- 教員採用試験対策講座スタート（平成一七年七月まで一〇月～十一月）
- インターンシップ実習報告会
- 業界研究会*（各業界のリーディングカンパニーを招致）
- テーマ別ガイダンス

特集・就職

- 公務員試験説明会
 - 就職模擬試験*
 - TOEIC IPテスト*
 - 就職模擬試験
 - 第四回就職ガイダンス（就職活動の心構えと学内セミナー等の説明）
 - 二月～三月
 - 企業研究会・合同企業研究会
 - 公務員試験説明会
- （*：学年に関係なく参加できる行事）

七 Webでの就職情報提供

本学では、インターネットを利用した就職支援のためのWEBシステム・KIPSを独自に開設している。KIPSとは、Kansai University Information Placement Systemの略称である。KIPSには約二二、〇〇〇社の企業情報がデータベース化されており、公務員関係・インターンシップ・キャリアアップニングの情報も充実させ、一年次生か

らも利用価値の高い内容としている。

学内からだけではなく自宅のパソコンからもアクセス可能な、学生にとって欠かせない就職活動の情報源として活用されている。キャリアセンター主催の各種行事の案内から、キャリアセンターが得た独自の採用情報やOB・OGの活動情報など、毎日多くの情報を発信して本学学生の就職活動を強力に支援している。平成一七年度からは、これまでのシステムを一新し、よりユーザー側の学生が利用しやすいシステムに転換する予定である。

八 公務員・教員等各種試験対策

景気が幾分復調してきたものの学生の公務員志向は依然として根強いものがある。しかしながら、実際公務員の採用に関していえば、とにかく筆記試験を突破しない限り、次のステップは踏み出せない。一次試験でいかに高得点を得ることができかが合格の鍵を握っているわけである。そのためには、それぞれの公務員試験に対応した試験対策をとることが肝要である。そこで、本学ではエクステンション・リードセンターを開設し、国家I種をはじめとしてII種や地方公務員上級職などの対策講座を多彩に開講して

いる。

それと同時にキャリアセンターにおいて公務員採用情報に関するガイダンスを繰り返し実施している。ここでは、現在人事院を中心として推進されている公務員制度改革についても折に触れて説明を行っている。現在求められている公務員像は「自己」で問題を発見し、その解決策を見出せる、また国民・市民にとってどのようなサービスが展開できるかを常に模索できる人、つまりは民間企業が求めている人材像と何ら変わりがなくなってきたことを十分認識してもらうためである。これらは、公務員の人事制度が見直され給与体系が民間企業と同様に能力と成果によって配分されていく方向性が出ていることから十分理解されることのものである。「何故公務員になりたいのか」これは今まで以上に大きな意味を持つ質問となる。

また、公務員以外のその他難関資格を目指す場合も同様に周到な計画が必要なことから、司法試験受験や公認会計士試験受験などをはじめとして各種の多彩な対策講座をエクステンション・リードセンターで開講している。

さらに、教員を目指す学生を対象にキャリアセンターとして対策講座を開講している。これは、正規の授業とは別に実施している特別講座で、教員採用試験に合格するため

のノウハウを様々な角度から学習できる内容で、毎年秋から翌年の試験直前まで開講している。これまでは、高・中教員採用試験対策を中心に展開してきたが、本年度秋開講分からは主に二年次生を対象にした小学校教員資格認定試験対策講座を開講し、小学校教員課程のない本学学生が同教員を目指すことのできる仕組みを導入した。

九 最後に

民間企業・公務員を問わず、その人が持つ個性と能力が厳しく問われる時代になっている。多くの企業は「量より質」の採用を行う方針を堅持しており、「質」の高い学生を求めている状況の中で、今後も学生にとっては依然厳しい就職活動が展開される模様である。

採用試験において最終的に採用を決定させるポイントは公務員・民間と関係なく「この人に仕事を任せられるか。一緒に仕事をやっていけそうか」ということに尽きることである。採用面接等で「学生時代に一番打ち込んだことは何ですか？」がよく聞かれるその意図は、「自分」を大事に考え、「自分」を開発するために惜しみなく努力を続ける人

にはキラリと輝くものが相手に伝わる所以である。充実した学生生活を送った学生には、自ずと明るい未来が開けているといってもよい。

しかし残念ながら、毎年何とはなしに時間が過ぎ、気が付けば適当にアルバイトをし、面白おかしく友人達と旅行に出掛け、ボーイフレンドやガールフレンドと楽しく交際していたが、大学生として何を自分は果たしたのかを考えた時に自身が空っぽであったという者が少なからずいる。「今さえ楽しければよい」という利他的な考え方を是正し、自分自身の時間を取り戻させて充実した学生生活を送ることが就職に留まらず将来を生きっていくうえで大きな糧を得るということに気付かせることが大学にとって大きな役割となっている。

また、やはり「何故、そこを志望するのか」は重要なポイントである。あまたある業界の中で何故そこに興味を持ち、またその業界の中でも数多くある企業の中で何故その企業を志望するのかという志望動機は採用側にとって非常に重要な要素である。そのためには現在の社会がどのような動きを見せているかについての関心を啓発するとともに、社会を構成する産業構造に対する理解を促す機会を大学が積極的に提供することが必要となっている。

これらのように、果たしてここまで大学がしなければならないのかという論議はあることはもちろん承知しているが、現代の学生気質を考慮すると、仕事をすることや働く意義について涵養をはかることは、最早避けて通ることのできない状況である。但し、手取り足取りの指導ではなく、学生が自律して行動を開始できるように取組を如何に構築するかがそれぞれの大学の知恵と工夫であると考える。

かつての大学の役割は、一部の高等教育を享受した研究者や教育者の育成を主眼として捉えられてきた。しかし、大学進学率が五割近くなった現代においては、多くの大学の使命と役割は、いかに善良で良識ある市民を育成するかに変化してきているといっても過言ではない。学生ひとりのキャリア形成は就職支援の部局だけで担えるものではない。本学では、しっかりとした教育に立脚して全学を挙げて学生に対して多様な知的サービスを展開することがその鍵であると認識している。